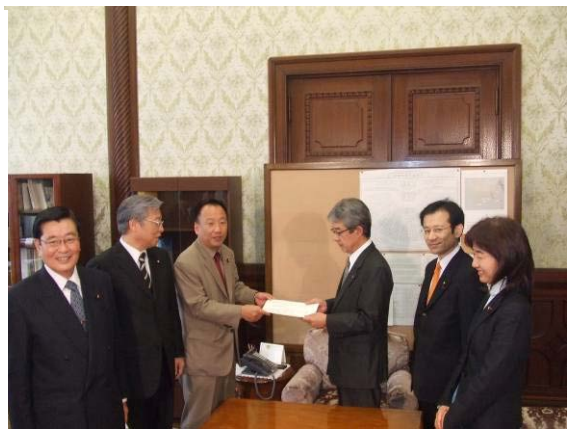
kusuo-report

民主党参議院比例区代 37 総支部／福岡県直方市知古 764-1

大島九州男は、皆さまにささえられて、少しずつではありますが、確実に一歩一歩前進しています。小さな一歩を積み重ね、日本だけではなく世界の人々が“みんな笑顔”で暮らせる社会を実現するため、「奉仕と無の心」でがんばっています。

プロジェクトNo.1 法案提出

▶ 教科書バリアフリー関連３法案 2008. 3/18



教科書バリアフリー法案は、「すべての子どもの学ぶ機会を保障する」観点から、弱視の子供のための拡大教科書発行に国と教科書会社が責任を持つという法律案です。

大島九州男、直島正行政調会長（当時）鈴木寛議員、佐藤泰介議員らで法律案を参議院に提出した後、与野党協議を行い、「障害のある児童および生徒のための教科書用特定図書等の普及の促進等に関する法律案」として超党派で法律案をまとめ、衆議院でも可決・成立させました。

▶ 「高校無償化法案」および学校教育力の向上３法案 2009. 3/25

高校無償化法案は、高等学校の標準授業料額を設定し、国公私立全ての高等学校などの生徒の保護者に対し授業相当額の就学支援金を支給することにより、公立高等学校における教育の実質的無償化を推進し、私立の高等学校等の教育に係る負担を軽減する法律案です。また、私立の高等学校等の生徒の保護者の中で年収 500 万円以下の世帯に対しては、特に、標準授業料の２倍の額を支払うとしています。

学校教育力の向上を目的とする３法案については、学力低下、特に保護者の経済力の違いによる学力格差を解消するものです。法案には、「全ての子どもの学習権の保障」、「機会の平等完全確保」を掲げており、高校無償法案と併せて、民主党のマニュフェスト作成のベースになりました。

▶ 障がい者制度改革推進法案 2009. 4/14

2009 年は、国連の「障害者権利条約」の批准、「障害者基本法」成立以来５年目の見直し、「障害者自立支援法」成立以来３年後の見直しの年にあたり、大変重要な年です.

民主党は、障がい者が当たり前に地域で暮らし、地域の一員として差別なく共に生活することができる社会を目指しています。この考えをもとに障がい者制度改革推進法案は、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、すべての人が暮らしやすい社会を構築する事が基本理念です。障がい者の生活や社会参加が不安なく積極的になされ、また、障がい者を保護の対象から、権利の主体へと変換させるためにも、小手先の改革ではなく抜本的かつ総合的な制度改革を行っていくことを法律案としてまとめ、参議院に提出しました。

▶ 水俣病被害の救済に関する特別措置法 2009. 4/17

2009 年４月 17 日、大島九州男は、標記の法案を直島正行政調会長（当時）とともに参議院に提出しました。本法律案の目的は、加害企業の救済ではなく、被害者すべての救済・未来の子ども達にも影響が出てくる可能性も含めて、被害者の方たちの立場を守ることです

一方、大島九州男が事務局長を務める水俣病対策作業チームは水俣市と新潟において現地視察を行い、提出した法案説明と今後の対応等について意見交換を行いました。

また、今後も引き続き患者団体と話し合いを重ね、被害者の皆さんが納得できる解決を目指す方針を示しました。

その後、与野党協議の結果、７月に水俣病被害者救済特別措置法として成立しました。

しかし、もともと理念の違う民主党案と自民党案が融合しないとの考えから、今後は、2004 年の最高裁判決に基づく法案になるよう最大限の努力を続けて参ります。

プロジェクトNo.2 質問録

開会日	院名	会議名	審議案件
07.10.30	参議院	文教科学委員会	教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査
08.02.20	参議院	国民生活・経済に関する調査会	「幸福度の高い社会の構築」のうち、国民生　活と行財政の現状について
08.03.28	参議院	総務委員会	NHK 予算
08.03.31	参議院	文教科学委員会	公立義務教育諸学校の学級編成及び教員定数の標準に関する法律の一部改正案
08.05.14	参議院	国民生活・経済に関する調査会	幸福度の高い社会の構築
08.05.23	参議院	沖縄及び北方問題に関する特別委員会	沖縄及び北方問題に関しての施策に関する件
08.05.27	参議院	文教科学委員会	独立行政法人日本原子力研究開発機構法の一部を改正する法律案
08.11.27	参議院	内閣委員会	銃砲刀剣類所持等取締法の一部を改正する法律案
09.02.25	参議院	国際・地球温暖化に関する調査会	日本の国際社会における役割とリーダーシップの発揮のうち、NGOの役割について
09.03.19	参議院	総務委員会	地方税法等の一部を改正する法律案
09.03.30	参議院	総務委員会	NHK 予算
09.04.07	参議院	総務委員会	かんぽの宿等売却問題を含む郵政事業に関する件
09.05.27	衆議院	文部科学委員会	国公立の高等学校における教育の実質的無償化の推進及び私立の高等学校等における教育に係る負担の軽減のための高等学校等就学支援金の支給等に関する法律案
09.06.11	参議院	厚生労働委員会	国民年金法等の一部を改正する法律等の一部を改正する法律案

◆2009.03.30 総務委員会

ＮＨＫ予算審議

ＮＨＫの経営計画の受信料１０％還元について、受信料体系のあり方や受信料納付方法について質し、「受信料の強制的徴収は、考えていない」と、日本放送協会理事から答弁を引き出しました。

また、大島九州男は、鳩山邦夫総務大臣に対し、「消えた年金や消された年金の問題すら解決できていない中、高齢者が受け取る公的年金から、住んでいる自治体に納める個人住民税が、2009 年１０月支給分より天引きされようになる。その上、公的年金から強制徴収されると、高齢者に混乱が起きるのではないか」と質しました。これに対し、鳩山邦夫総務大臣は『確実に納付モレが無いようにするため、公的年金から強制徴収するが、どのくらいみんなが知っているかは正直言って自信はありません。よほど周知宣伝しないと反発が起きる可能性はあると思う』と答弁し、混乱を招く可能性があることを示唆しました。

◆2009.05.27 衆議院文部科学委員会

高校無償化法案

衆議院文部科学委員会に答弁者として出席

いわゆる「高校無償化法案」に関連し、発議者である鈴木寛参議院議員、並びに大島九州男（ともに民主党）、塩谷文部科学大臣、政府参考人に対し、質疑が行われました。

大島九州男は、日森文尋衆議院議員より、授業料負担の大きさから、高等学校等への進学を断念せざる得ない生徒がいるという現状に対する認識を尋ねられ、「①制度設計においては、高校無償化を目指すということで、後期中等教育の無償化実現に向けた第一歩と考えている。②戦後、新制高校の制度設計の際には、義務制とはしないものの、希望者が漏れなく進学することが望ましく、将来的には無償にすべきだと考えている。③すべての義務教育修了者に次なる教育の機会を保障するため、その第一歩として、この法律案を提出している」と答弁しました。

これについては、質疑者の日森文尋衆議員（自民党）も賛同しています。

予算委員会理事に就任！

2009 年 10 月 26 日に召集された第 173 回臨時国会より、文教科学委員予算委員会理事、国際・地球温暖化問題に関する調査委員に就任しました。

文教科学委員会では、「高校無償化法案」の法案提出者として、本法案の成立に向けて全力で取り組んで参ります。

また、予算委員会では理事に任命され、委員会で使用する資料について責任を負うなど、委員会の潤滑な運営を担うことになりました。

しっかりと務めさせていただきながら、様々な経験を積んで参りたいと考えております。

参議院所属委員会

07.09.13～08.12.25　文教科学委員会・委員
07.09.10～08.12.25　沖縄北方特別委員会・委員
07.12.19～08.01.17　議員運営委員会・委員
09.01.05～09.10.26　総務委員会・委員
09.01.05～09.10.26　議員運営委員会・委員
09.10.26～現在　文教科学委員会・委員
09.10.26～現在　予算委員会・理事
09.10.26～現在　国際・地球温暖化問題に関する調査委員

民主党役職歴

08.10.05～09.07.21　民主党企業団体対策委員会・顧問
09.01.05～09.10.25　民主党・新緑風会・国民新・日本国会対策副委員長

プロジェクトNo.3 現場主義

大島九州男は、まず現場に入り、皆様と対話することから始めます。国民の皆様の生の声を直接聞き受け止め、国政に政策に反映できるよう、日々東奔西走しています。

地域振興

大島九州男の要請を受け、2008 年３月、鳩山由紀夫民主党幹事長（当時）は、民主党の「商店街・中小企業振興対策の立案に向けた状況視察」のため、北九州市と直方市を訪れ、商店街や建設業組合の関係者と意見を交換しました。

中小企業 窮状訴える

直方市 鞍手町 地元民主党議員が視察

景気悪化が続く中、年度末の2009年3月には、民主党福岡県連緊急雇用対策本部（本部長・松本龍県連代表）のメンバーが、直方市と鞍手町にあるトヨタ自動車九州（麻生太郎前首相のおひざ元・福岡県第８区内）などの企業を回り現地調査をしました。

大島九州男は、早速、所属の総務委員会でその現状を訴え、厚生労働省に対しても、よりフレキシブルに対応すること、担当者に周知徹底していただき、早急に対策を立てることを強く要望しました。

環境問題

２００８年４月４日、超党派で作る「公共事業チェック議員の会」で青森県六ヶ所村を視察し、日本原燃幹部らと意見交換を行いました。

六ヶ所村には、使用済み核燃料の再処理工場がありますが、大島九州男は、その敷地の真下まで、活断層（出戸西方断層）が延びていることを指摘しました。原子力の安全性についてしっかりと議論していかなければなりません。

環境エネルギーを考える

現在、日本の発電の大部分は、火力・原子力発電によってまかなわれていますが、化石燃料の枯渇、地球温暖化の原因といった重大な問題があります。さらに、世界のエネルギー資源の確認埋蔵量は、石油であと４１年・ウランであと８５年しかもたないと言われています。

近年、これらの問題点を解消するにあたって、クリーンなエネルギーしかも無尽蔵のエネルギー源を活用した、環境エネルギーの研究・開発が行われています。

米偽装調査団団長として，熊本・鹿児島へ

２００８年１０月、大島九州男を団長とする「民主党・米偽装調査団」が、事故米の流通先として農水省から店名を公表され、風評被害が起きている鹿児島県・熊本県の菓子店を訪問し、店主・経営者らに現状などを聞き取り調査しました。

かるかんまんじゅうを試食しながら、被害の実情などを聞く大島参院議員

疑惑徹底追及

２００９年２月、民主党はじめ、社民、国民新の野党３党は、「かんぽの宿」等疑惑追及プロジェクトチーム（ＰＴ）を発足させました。大島九州男もそのメンバーに選出され、埼玉県さいたま市にある“ラフレさいたま”を現地視察しました。

国際交流

北方四島訪問事業への参加

北方領土への訪問事業は、平成３年、ゴルバチョフ大統領が来日時に、当時のソ連から提案され日ソ間で合意された日本国民と北方四島在住ロシア人との間の旅券・査証なしで行う交流です。この交流で相互理解を深め、領土問題の解決に寄与をすることを目的として、平成４年から行われています。その後、交流の一層の拡大を図るために、平成７年からは国会議員も参加できるようになりました。大島九州男は、２００８年９月、この訪問事業に参加し、択捉島へ渡りました。「この島は、あまりにも特定の企業のみに依存しすぎている上、社会基盤整備が遅れている。昔の炭鉱の町のような感じを受けました。」（大島九州男談）とのことです。今後も、次世代につながる交流を期待しています。

アジア・太平洋議員フォーラムへ 日本国会代表団として派遣

２００９年１月にラオス・ビエンチャンで開催された、第１７回アジア･太平洋議員フォーラム総会に、日本の国会議員団副団長として派遣されて参加してきました。

大島九州男は、「朝鮮半島情勢に関する決議案」の趣旨及び背景についての説明を行いました。朝鮮半島の平和と安定は、アジア太平洋地域全体の安全保障上、非常に重要な課題です。日本は、唯一の被爆国であるため、世界に核兵器による被害の悲惨さを訴えるとともに、核廃絶を強く求める使命を有しています。大島九州男は、関係各国の努力が肝要であることを強く訴えました。

プロジェクトNo.4 政権交代

政権交代、成る！

2009.8/30

政権交代！実現の夜 あなたが、歴史をつくったのです。

投開票日の 2009 年８月３０日、全国で民主党の候補者が国民から次々と“当選”しました。

私はこの総選挙で、民主党の政策を強く訴え、現職の議員や相手候補と競っている候補者を１人でも多く小選挙区で勝利させ、「政権交代」「国民の生活が第一」を実現するために、全力を尽くしました。おかげさまで、皆さまの「変える勇気と変わらない信念」が、政権交代を実現のものとしてくださいました。

疲弊した国民が**笑顔を取り戻す**ためには、民主党がマニフェストで示した政策を実現していかなければなりません。私も新しい仲間と一緒に、公約実現に向け政権運営に携わり、みんなが元気になれる日本にするために、より一層研鑽し、邁進してまいります。

鳩山政権スタート。

9月16日、衆・参本会議が開かれ、鳩山由紀夫民主党代表を第93代内閣総理大臣に指名しました。衆議院の首相指名選挙で鳩山代表は、民主党・無所属クブの312人に、社会民主党・市民連合の7人と国民新党の3人、他を加え327票を獲得しました。首相指名を受けた鳩山代表は、総理としての重責をかみしめるよう何度も丁寧にお辞儀をしました。

とことん国民の皆さんのために

鳩山由紀夫新総理大臣は、16日夕、首相官邸で初の記者会見を行い、「国民の皆さんの期待に応えるために連立政権をスタートさせた」と述べ、社民党、国民新党との連立政権を正式に発足させたことを報告しました。また、「日本の歴史が変わると思うと身震いがする。本当の意味での国民主権に変える、その強い責任を感じたところ」と首相指名を受けた感想を述べました。さらに、目指す政治について、脱官僚依存であることを強調したうえで、国民の皆さんに対して、「ただ1票を投じればいいのではなく、政権にモノを言い、政権に参画してもらいたい。私たちは、試行錯誤で失敗することもあるかもしれない。国民の皆さんに寛容を求めたい。国民の皆さんに育てていただければ幸せ」と国民の参画を促しました。

臨時国会・開会

11月2、4、5日の3日間、衆院予算委員会が開かれ、海江田万里、平岡秀夫、山口壮各議員が質問に立ちました。6日からは参議院に舞台を移して予算委員会が行われ、平野達男議員から質問がスタート。

「税金のムダ遣い」排除をはじめとする民主党のマニフェストや外交問題など、国民の立場から鳩山由紀夫総理大臣（民主党代表）をはじめ、関係閣僚の見解を質しました。

一方、各閣僚は官僚のサポートを受けずに答弁。民主党が掲げる「政治主導の国会運営」を早速実践する形となりました。

鳩山由紀夫総理は2日夕、首相官邸で記者団に対し、総理として初めて臨んだ衆院予算委員会の感想について、「最初はかなり緊張した」としつつも、「国民の皆さんに政治家同士の論争をしっかりと見て頂けたとしたら、国会が少しずつ変わってきたと理解をされると思う」と振り返り、今後さらに活発な論争ができると展望を語りました。

information

国政報告ミニ集会

３人よれば… 九州男が来る

ご承知のとおり、国会議員の仕事は、法律を作ることです。そのために、皆さまお一人お一人の生の声を政策に反映させなければなりません。

大島九州男は、国政の現状をお伝えするため、全国各所でミニ集会を行っています。

皆さまと語り合う中で、いつも感じることは、マスコミを通じた情報が実態よりも優先されてしまっているということです。

だからこそ、直接、国民の皆さまに会い、真実をお伝えする事の大切さを痛感しています。これからも、全国各地を自らの足で歩き回り、地道に国政報告会を続けていきます。

近くに立ち寄った折には、ぜひ集会にご参加いただければ幸いです。皆さまのお声を励みにさせていただきます。